

## 平成26年度 事業報告書

### 1 組織強化活動

#### (1) 全戸会員制の推進

社会福祉事業の組織的活動の促進と地域福祉の増進を図るため、社協の全戸会員制を推進し、各自治会の協力のもとに7,511戸で98%の加入実績となった。

#### (2) 高額寄付者に対する感謝状の贈呈

社会福祉事業に10万円以上の金品を寄付された14名の寄付者に対し、感謝状を贈呈した。

#### (3) 研修会等への参加

- 上川管内北部ブロック事務局長会議 (26年6月5日 士別市1名)
- 上川管内社協職員連絡協議会研修会 (26年6月6日 旭川市3名)
- 新地域支援事業の在り方を考える (26年6月8日 札幌市1名)
- 全道社協会長事務局長研究協議会 (26年6月10日～11日 札幌市2名)
- 上川管内市町村社協会長事務局長会議 (26年6月17日 旭川市2名)
- 道北7市社協職員自主研修会 (26年7月11日～12日 留萌市4名)
- 全道社協職員新任研修会 (26年7月16日～18日 札幌市1名)
- 全道社連協研修会 (26年8月7日～9日 札幌市1名)
- 上川地区地域に理解され支持される社協づくり研修会 (26年8月11日 旭川市2名)
- 上川管内社協役職員研修会 (26年11月18日 旭川市5名)
- 全道市町村社協会長事務局長連絡会議 (26年11月26日 札幌市2名)
- 全道ホームヘルプ事業経営セミナー (27年3月7日 札幌市1名)
- 上川管内社連協北部ブロック研修会 (27年3月20日 士別市10名)

### 2 広報広聴活動の充実

#### (1) 社協だよりの発行

全戸配布する「社協だより」を、6回(第174～第179号)発行し、各種福祉サービス、ボランティア活動及び住民の福祉活動など幅広い情報の提供に努めた。

#### (2) 情報提供

各種ボランティアスクール開催案内等、ホームページによる福祉サービスの情報提供、また市内報道機関・行政の協力による広報活動を行った。

### (3) 広聴活動

広聴活動については、社協に常設の心配ごと相談所を開設し、相談員(社協職員・民生委員児童委員)が市民の福祉を中心とする日常生活上の相談に応じるとともに、様々な意見などを伺う広聴活動に取り組んだ。

また、平成25年度に設置の「第2期士別市地域福祉実践計画策定懇談会」を定期的  
に開催し、社協事業の審議・検証と合わせ、各種の福祉団体等に所属している、12名  
の懇談会委員から意見等を伺う広聴活動を実施した。

## 3 地域福祉活動

### (1) 支部活動の推進

市内の地区自治会連合会を単位とした5支部(中央・上士別・多寄・温根別・朝日)に対し、各地区独自の地域福祉活動の推進を図るため活動費を助成した。

### (2) 小地域ネットワーク活動推進事業

在宅福祉活動がより一層地域に定着していくことを願って、平成2年度から単位自治会を対象とした「在宅福祉サービス実践地区指定事業」を行ってきたが、平成14年度より「小地域ネットワーク活動推進事業」として改め、各自治会とタイアップした地域福祉の推進をめざし、本年度は25自治会に事業拡大し、1自治会3万円の助成を行った。

### (3) 災害に強い地域づくりの推進

まさかの坂はどこにでもあり、こうした自然災害等が本市において発生した場合、その被災者や被災地の速やかな復興復旧が、極めて重要となるものである。

このため、士別市地域防災計画に基づき、復興復旧の救援活動を行うボランティアの受入調整と、その体制づくりを推進する、「士別市災害救援ボランティアセンター設置運営マニュアル」を整備した。

また、北海道内において自然災害等が発生した場合、道内の各市町村社協が相互に救援活動を推進することの、「災害救援活動の支援に関する協定」について、北海道社会福祉協議会と、平成26年12月1日締結した。

さらに、市民や社協職員を対象とした、災害に強い地域づくり研修会を次のとおり実施した。

研修月日 2月14日(土)  
会 場 士別市民文化センター  
講 演 「防減災を核とした小地域活動」  
講 師 篠原辰二氏 一般社団法人ウェルビーデザイン理事長  
参加者 市民 79名

研修月日 3月13日(金)  
会 場 サポートセンターしべつ

講演 「大災害時の社会福祉協議会の役割」  
講師 篠原辰二氏 一般社団法人ウェルビーデザイン理事長  
参加者 社協職員 35名

#### 4 ボランティア活動

##### (1)平成26年度士別市福祉教育懇談会

日程 5月 14日(水) 18:30~20:00  
会場 士別市民文化センター 研修室  
内容 パラリンピックメダリストでありながら、全国初の全盲の普通学校教諭として活躍された河合さんから、子どもたちが夢を持てる教育環境づくりをテーマにお話をいただいた。  
講演 「子どもたちが夢をもてる教育環境づくり」  
～地域との連携をとおして～  
講師 河合純一氏 日本パラリンピアンズ協会 会長  
パラリンピック水泳競技メダリスト  
参加者 市内教員、ボランティアセンター運営委員等 30名

##### (2)第24回士別市小学生ボランティアスクール

日程 5月 17日(土) 10:00~11:30  
会場 士別市民文化センター 研修室  
内容 河合さんから、夢に向かい努力することの大切さ等についてお話しいただき、参加者の児童との交流を行った。  
テーマ 「夢 追いかけて」  
講師 河合 純一氏  
参加者 12名

##### (3)平成26年度第1回士別市民ボランティアスクール

日程 5月 17日(土) 13:30~15:00  
会場 士別市民文化センター 小ホール  
地域のネットワーク活動、住民相互の支援活動を進め、地域の力を高めていくことを目的に開催した。  
今回は、パラリンピックメダリストであり、全国初の全盲の普通学校教諭として活躍した河合さんから、障害に対する一人ひとりの意識の持ち方や、夢に向かい努力することの大切さ等についてお話しいただいた。  
講演 「夢 輝かせて」～見えないからこそ見えるものがある～  
講師 河合 純一氏 日本パラリンピアンズ協会 会長  
パラリンピック水泳競技メダリスト  
参加者 135名

(4)平成26年度第2回士別市民ボランティアスクール

日 程 9月24日(水) 18:30~20:00

会 場 士別市民文化センター 研修室

地域のネットワーク活動、住民相互の支援活動を進め、地域の力を高めていくことを目的に開催した。

今回は、東日本大震災を体験した宮古市社会福祉協議会の小林さんを講師に招き、震災当時の様子、そして3年経過した現在は、住民自身が「自立」の一步を踏み出せるような支援等について研修した。

講演 「震災から3年 新たな地域づくりに必要なもの」

講師 小林 さつき氏 岩手県宮古市社会福祉協議会

相談員・ボランティアコーディネーター

参加者 96名

(5)第36回住民福祉活動を進めるつどい

日 程 10月10日(金) 18:30~20:00

会 場 士別市民文化センター 小ホール

内 容 日本ボランティアコーディネーター協会事務局長である後藤さんから、他人の援助や支援を受け入れる「受援力」をテーマに、「個人」はもちろん、災害時などに「地域」が受援力を発揮できる風土や土壌を整える必要性についてお話しいただいた。

講演 「あなたの“受援力”は十分ですか？」

～“助ける”勇氣と“助けられる”勇氣～

講師 後藤 麻理子氏

NPO法人 日本ボランティアコーディネーター協会事務局長

参加者 116名

(6)ボランティア研修交流会

日 程 10月11日(土) 14:30~20:00

会 場 士別市生涯学習情報センターいぶき

内 容 行政区域の枠を越えたボランティアネットワークの輪を構築し、強化を図ることを目的として、士別市、名寄市、剣淵町、和寒町のボランティアによる研修交流会を実施した。

・シンポジウム

「これまでのボランティア、これからのボランティア」

シンポジスト

後藤 麻理子氏

NPO法人 日本ボランティアコーディネーター協会事務局長

鈴木 盈宏氏

NPO法人 日本ボランティアコーディネーター協会理事

柏山 茂紀氏

秋田県小坂町社会福祉協議会事務局長

- ・情報交換 「各地域ボランティアセンターの取り組み、課題」
  - ・交流会
- 参加者 58名  
(土別市31名、名寄市12名、剣淵町 8名、和寒町 4名、講師 3名)

(7) 上川北部ボランティア実践者交流会

- 日 程 11月 15日(土)
- 会 場 土別市つくも青少年の家
- 内 容 上川管内のボランティア実践者のネットワークの強化を目的に開催しており、今年度は土別を会場に開催された。  
講師の篠原さんから災害救援ボランティアセンターの役割や機能の説明をいただいた後、グループごとに「もし、土別で災害が起きたら」と想定し、災害救援ボランティアセンターの運営を考えるワークショップを行った。  
テーマ「近年の大規模災害時の  
災害救援ボランティアセンターの役割と機能について」  
講演、ワークショップ  
講師 篠原 辰二氏 一般社団法人ウェルビーデザイン理事長  
菅原 清香氏 一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン  
福祉・防災学習コーディネーター
- 参加者 60名

(8) 第20回土別市中学生・高校生ワークキャンプ

- 日 程 11月 15日(土) ~ 16日(日)
- 会 場 土別市つくも青少年の家
- 内 容 講師の菅原さんと篠原さんから、災害時の中高生の実際の活躍の様子をお話していただき、「もしも土別で災害が起きたとき、自分たちは何ができるか」等をテーマにワークショップを行った。  
テーマ 「私たちができること」  
講演、ワークショップ  
講師 菅原 清香氏 一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン  
福祉・防災学習コーディネーター  
篠原 辰二氏 一般社団法人ウェルビーデザイン理事長
- 参加者 市内高校生、ボランティアセンター運営委員 18名

(9) 平成26年度第2回ボランティア指定校担当者会議

- 日 程 2月25日(水) 18:30~20:00
- 会 場 サポートセンターしべつ 2階 会議室1
- 内 容 今年度「子どもの心を育む講演・交流事業」を行った学校2校からの実践報告や、各校の担当者とボランティアセンター運営委員の情報交換を行った。
- 参加者 24名

(10) 福祉・ボランティア団体助成事業

福祉団体、ボランティア団体の活動を援助するため、18団体に対し助成し活動の助長を図った。

(11) 学童生徒のボランティア活動普及事業

本事業は、学童生徒の社会福祉への理解と関心を深め、ボランティア精神を養うことを目的として、市内全校（小学校8校、中学校6校、高等学校1校）に対し、生徒数20人以上の学校は年間5万円、20人未満の学校は年間3万円を助成し活動の助長を図った。

(12) 土別市ボランティアセンターの運営

本市のボランティア活動を推進するため、18名の運営委員のもと各種ボランティアスクール、ワークキャンプ、住民福祉活動を進めるつどい等の企画運営や、ボランティアセンターだよりの発行等に取り組んだ。

○運営委員会 委員18名 委員会12回（第2月曜日）開催

○個人登録ボランティア 79名（平成27年3月31日現在）

○ボランティアセンターだよりの発行 3回

○社協だより掲示板への掲載 6回

○ボランティア指定校担当者会議の開催 2回

○土曜ボランティア学習塾の開催（対象…中学生、高校生）

（ボランティア体験学習や情報交換を継続的に実施）

塾登録者 17名

塾開催日 毎月第2土曜日（12回開催）塾生延べ 57名参加

開催内容 ふれあい広場（学童生徒コーナー）企画運営

児童館児童、障がい者との交流、年賀状代筆ボランティア等

○社会貢献活動への協力

「ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届けよう」、「空き缶のリングプルを集めて車椅子を贈ろう」という運動が市民に定着してきており、エコキャップ（ペットボトルのキャップ）に関しては、本年度は760の団体、個人から寄せられ、平成20年4月からの送付累計は5,889,019個（27年3月16日現在）。

(13) 収集ボランティア活動

市民から寄せられた使用済み切手、プリペイトカードを収集ボランティアサークルひまわりが整理し「誕生日ありがとう運動本部」に送っており、本年度の実績は次のとおりである。

使用済み切手 195件 120,376枚

使用済みカード 48件 2,660枚

#### (14) 声の図書活動

##### ○声の図書貸出事業

本事業は、小説、市の広報誌等を、声の図書朗読ボランティアが録音し、貸し出すものであり、出来上がった録音テープは現在 1,855編 12,328本となり、本年度の貸し出しは延 40件 329編 1,445本であった。

・利用者 視力障がい者他 5名

## 5 互助共励活動

#### (1) 無縁仏供養

日程 8月20日

会場 しべつ霊園「無縁の碑」

無縁者の霊を慰めるため、昭和60年士別市が建立した「無縁の碑」において、市関係者の参列のもと52柱の供養をした。

#### (2) 歳末たすけあい募金運動（26年12月 1日～30日）

本募金運動は、多くの市民、事業所、団体等の協力のもと、士別市共同募金委員会と共催で実施しており、本年度は催し物による募金を含め、47件 1,424,113円の浄財が寄せられた。

なお、毎年恒例となっている、ボランティアサークルむぎの会主催による「歳末チャリティーふれあい演芸会」益金431,680円と、しべつふれあいの会主催「歳末チャリティーカラオケ選手権大会」益金387,580円の募金合計は、819,260円となり実績の約58%を占めている。

#### (3) 「ふれあい募金箱」運動

昭和58年より、歳末たすけあい募金運動の通年化と市民の善意の助長を図るため、しべつふれあいの会の協力のもと「ふれあい募金箱」を設置しており、その総額が97,869円となり、全額趣旨に添って「歳末たすけあい募金」として寄贈した。

募金箱設置事業所 市内37ヶ所

#### (4) 歳末たすけあい見舞事業（26年12月）

民生委員・市保健福祉部の協力により対象者を調査し、歳末見舞金品を交付した。

対象者 178名 見舞金品総額 1,078,000円

#### (5) ふれあい広場'14 IN しべつ PART31

日程 7月6日（土）～7日（日）

会場 士別市総合体育館

テーマ 「で愛 ふれ愛 かたり愛」～あふれる笑顔 みんなが主役～

実施主体 福祉・ボランティア団体・各学校並びに市民有志で構成された、

180名の「ふれあい広場」14INしべつPART31実行委員会」  
が、企画から当日の運営にあたった。

- 内 容
- ・ 語らいコーナー…語らいサロン、血圧測定、健康相談（市立病院医師派遣）
  - ・ 体験の広場…点字教室、盲導犬体験・講話、収集ボランティア活動体験、アダプテッドスポーツ体験（車イスラグビー等）等  
メインテーマ  
「アダプテッドスポーツ体験」
  - ・ ステージ企画…ふれあいコンサート 等
  - ・ ふれあいの店…障がい者関係作品展示即売、バザー
  - ・ ボランティア障がい者福祉展  
…布の絵本わらべ展、特別支援教育作品展、福島県川内村帰村への歩み展
  - ・ 学童生徒ボランティア活動展  
…各学校のボランティア活動時のパネル写真展・学童生徒企画コーナー（駄菓子屋、バルーンアート等）
  - ・ 福祉標語  
応募点数 363名 363点  
最優秀作品 「愛を込め 絆を深め みんなの輪」
  - ・ ふれあいの夕べ（17：30～19：00）  
参加者 560名（つまみセット交換数）
- 会 議 実行委員会2回含め 24回開催
- 入 場 者 2日間 約 3,200名
- 協 力 者 2日間 496名（実行委員、事務局を除く）  
※ステージ出演者含む

#### ガイドヘルプ活動

ガイドヘルプ委員会を設け、自力で移動の困難な方に対してのガイドヘルプ活動を行い、2日間で14名が参加した。

#### (6) 土別ふれあいネットワーク会議研修会

日 程 6月15日（土）13：30～16：15

会 場 市民文化センター 研修室

内 容 東日本大震災では、災害弱者とされる障がいをもった方が多く被害にあったことから、「まさか」の時のため、障がいをもった方自身、また、関係者の日頃の備えについて研修した。

#### 映画上映

「命のことづけ ～死亡率2倍 障がいのある人たちの3.11～」

講義・演習 「まさかの坂はどこにでもあります」

講師 篠原辰二氏

一般社団法人 ウェルビーデザイン理事長

参加者 障がい者団体会員、関係団体 57名



### (7) 生活福祉資金貸付事務

低所得者や高齢者、障がい者のいる世帯等の生活自立を支援するため北海道社会福祉協議会が主体となり、市町村社協が相談窓口となっている事業で、本年度は生活支援費、教育支援資金についての相談が12件あった。

平成27年3月31日現在

資 金 名		件数	貸 付 額
更生資金	生業費	1	1,642,500円
教育支援資金	教育支援費	4	7,512,000円
教育支援資金	教育支援費+就学支度金	6	7,670,000円
緊急小口資金		1	100,000円
計		12	16,924,500円

### (8) 特別生活資金（冬期生活資金）貸付事務（11月1日～3月31日）

福祉年金等を受給する高齢者、障がい者及び特定疾患世帯に対し、燃料費など冬期の生活を確保する生活資金を貸付する事業で、北海道社会福祉協議会が主体となり市町村社協が相談窓口となっている。

平成27年3月31日現在

貸付件数	貸付額
2件	100,000円

### (9) 士別市心配ごと相談所運営

近年、市民の悩みごとや心配ごと等、相談内容の多様化が目立っており、適切な助言と、各種福祉制度等の紹介活用等を行った。

#### 相談所

常設相談所…社協事務局内に置き、相談員が随時相談を受けている。

地域相談所…58名の相談員（民生委員）宅とし随時相談を受けている。

相談件数 年間149件

主な相談内容（相談件数の多い順）は、老人福祉、健康、苦情、医療であった。

### (10) 老人安全杖贈呈事業

おおむね70歳以上の高齢者や障がい者に対し、申し出により安全杖を無料で贈呈しており、本年度は200本の利用があった。

## 6 朝日地域福祉圏事業

### (1) ふれあい昼食会

町内の70歳以上の高齢者を対象に昼食会を月1回開催し、ボランティアを含め延べ733名の参加があった。（高齢者583名、ボランティア150名）

(2) 第47回福祉運動会

日 程 10月16日(月)

会 場 朝日町農業者トレーニングセンター

参加者 138名 (65歳以上の住民 92名、ボランティア 46名)

(3) ボランティア支援事業

○広報紙「ぼらんていあネットワーク」を年6回発行した。

(4) 助成事業

心身障がい児の療育施設通所に対し交通費の一部を助成した。

・土別市こども通園センターのぞみ園通園者4世帯6人(90回)

・旭川市療育施設通園者1世帯1人(16回)

・名寄市立総合病院リハビリ通院者1世帯1人(11回)

## 7 土別市指定管理及び受託事業

(1) 土別市総合福祉センター指定管理運営事業 [別記1]

(2) 土別市多世代スポーツ交流館指定管理運営事業 [別記2]

(3) サポートセンターしべつ受託事業 [別記3]

(4) 土別市施設入浴サービス受託事業 [別記4]

(5) 土別市移送サービス受託事業 [別記5]

(6) 土別市在宅介護支援センター運営受託事業 [別記6]

(7) 福祉パトロール受託事業 [別記7]

(8) 土別市いきいきデイサービス受託事業 [別記8]

(9) 土別市地域支え合いサロン開催モデル事業 [別記9]

## 8 介護保険制度に係わる事業者指定

(1) 居宅支援事業所(ケアプラン作成機関)

土別市社協居宅介護支援事業所

平成12年4月1日(指定)

[別記10]

(2) 居宅サービス事業所(サービス提供機関)

土別市社協ヘルパーステーション

平成12年4月1日(指定)

[別記11]

土別市社協訪問入浴事業所

平成12年4月1日(指定)

[別記12]

## 9 障害者総合支援法に係わる事業者指定

### (1) 居宅支援事業所（身体・知的・児童・精神）

士別市社協ヘルパーステーション

平成18年4月1日(指定) [別記13]

### 10 介護保険関係研修会への参加

- 全道ホームヘルプサービス研究大会 (26年7月8日～9日 札幌市1名)
- 介護支援専門員更新研修 (26年6月～9月 旭川市2名)
- 高齢者虐待防止推進研修会 (26年9月16日 札幌市1名)
- 認定調査員現任研修 (26年11月20日 士別市3名)
- 介護給付費等適正化事業 (26年10月28日～29日 士別市8名)
- 主任ケアマネフォローアップ研修 (26年8月10日・10月12日 札幌市2名)
- 上級ステップアップ研修 (26年12月7日 札幌市2名)
- 士別市介護支援専門員研修 (27年2月9日 士別市6名)
- ホームヘルプサービス事業経営セミナー (27年3月7日 札幌市1名)

## 11 平成26年度 強化事業

### (1) 権利擁護事業（日常生活自立支援事業・成年後見制度の取組）

意思表示や意思決定が困難な高齢者等に対し、日常的な金銭管理などの生活支援サービスを提供する、日常生活自立支援事業（道社協からの26年度新規委託事業）について、士別・和寒・剣淵・幌加内4社協の共同事業として実施した。

- ・ 自立生活支援専門員（士別市社協に配置）  
利用者との契約締結や、生活支援計画の作成等業務

- ・ 生活支援員（4社協にそれぞれ配置）  
支援計画に基づく、利用者への直接的な生活支援業務

#### ・ 利用実績

平成27年3月31日現在

項目	士 別 市			和 寒 町			剣 淵 町			幌 加 内 町		
	相談	回数	契約	相談	回数	契約	相談	回数	契約	相談	回数	契約
認知	8	24	2	0	0	0	0	0	0	1	6	1
精神	1	17	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0
知的	1	12	1	2	26	1	0	0	0	0	0	0
計	10	53	4	2	26	1	0	0	0	2	8	1

成年後見制度については、社協の法人後見事業の推進に向け、次の取組を実施した。

- ・ 市民後見人養成講座 9月10日～10月22日（8回）社協職員2名受講
- ・ 旭川地方家庭裁判所名寄支部への、成年後見制度訪問調査 職員3名訪問

## 権利擁護事業研修会等開催と他機関主催事業への参加

- ・権利擁護研修会を市民対象に、4社協共同で4会場に於いて実施した。

研修月日 2月4日 士別会場 士別市民文化センター

研修内容 「日常生活自立支援事業について」

講師 北海道社会福祉協議会旭川地区事務所 所長 萩原 寧昭氏

「成年後見制度について」

講師 弁護士法人 木村雅一法律特許事務所 弁護士 松田 啓明氏

参加者 91名

- ・日常生活自立支援事業中心に、白老町社協との役職員意見交換会

実施月日 10月14日 会場 サポートセンターしべつ

参加者 16名

- ・他機関主催の権利擁護研修会への参加 6回 職員9名参加

## (2) 子どもの心を育む福祉教育推進事業

「福祉教育が地域福祉の根幹をつくる」と言われており、このため、これを目指して子どもの豊かな福祉感と、健やかな成長を育むことの福祉教育推進事業を、次のとおり実施した。

テーマ 「夢追いかけて～河合純一さんのお話を聴いて」

5月16日 士別南小学校 5・6年生 70名

5月16日 士別翔雲高校 全校生徒 459名

テーマ 「ボランティアって何？」

6月26日 士別小学校 6年生 51名

1月27日 // 6年生 51名

2月4日 // 6年生 51名

2月10日 // 6年生 51名

2月18日 // 6年生 51名

テーマ 「東日本大震災からの歩み」

9月24日 士別東高校 全校生徒 16名

テーマ 「卒業後の自立を考える」

10月29日 士別東高校 全校生徒 16名

11月11日 // 3年生 7名

11月25日 // 3年生 7名

テーマ 「バリアフリーについて考えよう」

12月10日 士別小学校 4年生 45名

12月16日 // 4年生 45名

2月18日 // 4年生 45名

テーマ 「障害について考えよう」

2月 9日 土別小学校 3年生 49名

## 12 その他

社協監事による監査	4回	8月27日・11月27日・2月27日・5月14日
社協正副会長会議	4回	5月15日・8月13日・11月28日・3月4日
社協理事会	2回	5月21日・3月13日
社協評議員会	2回	5月28日・3月26日
地域福祉実践計画策定懇談会		
	2回	10月8日・3月19日
苦情解決第三者委員会	1回	4月9日
出前講座の実施	21回	

地域での福祉活動の推進を図るため、ボランティア活動、高齢者福祉等に関して、自治会、学校等へ職員が出向き出前講座を行った。